

載の事件と見るべく、從て漢史に天寶三載の事として記さるゝものとの間に一年の相違あるが如しと雖、然も碑文の第九行に於る缺落の部は、殘存の部よりも多ければ、第十行に記さるゝ「烏蘇米施可汗」を捕へ、其の可敦を取りたる事件が、必ずしも此の羊の年に於ける事件として記さるゝものとは斷ず可らず、實に第十行には鶏の年の記事を有せるより考ふれば、烏蘇米施可汗を捕へたる事件は、此等の兩年の間なる猿の年即ち天寶三載に相當する年の記事なるかも知る可らず、果して然らば碑文と漢史との間には必ずしも矛盾を有するものと曰ふ可きに非ず。

此の後幾も無く回鶻は俄かに葛邏祿と共に拔悉蜜を討ち、遂に其の可汗〔五七〕頡陁〔歟〕伊施を殺し、裴羅は代りて可汗の位に上るに至れり、即ち新唐書回鶻傳は前に引ける所に續きて

後三年襲破拔悉蜜、斬頡陁〔歟〕伊施可汗、遣使上狀、自稱骨咄祿毗伽闕可汗、天子以爲奉義王

と記せるが、同書突厥傳は更に詳しく此の事情を記し

三載拔悉蜜等殺烏蘇米施、傳首京師、獻太廟、其弟白眉特勒鶻隴匄立、是爲白眉可汗、於是突厥大亂、國人推拔悉蜜酋爲可汗、詔朔方節度使王忠嗣、以兵乘其亂、抵薩河內山、擊其左阿波達干十一部、破之、獨其右未下、而回紇・葛邏祿殺拔悉蜜可汗、奉回紇骨力裴羅定其國、是爲骨咄祿毗伽闕可汗

とせり、上に述べたるが如く、裴羅が拔悉蜜葛邏祿等と共に突厥を討ち、拔悉蜜部長を立てゝ可汗としたるは、天寶元年の事なれば、こゝに新書回鶻傳が「後三年」と記せるは天寶四載の義に外ならざれども、然も同書突厥傳には、之を以て同三載の事とし、舊唐書廻紇傳及び冊府元龜繼襲篇にも同様に「三載破拔悉蜜、自稱骨咄祿毘伽可汗、又遣使入朝、因冊爲懷仁可汗」と記せるのみならず、新唐書回鶻傳に此の翌年即ち「明年裴羅又攻殺突厥白眉